

觀光交通
鳥瞰圖
昭和十二年
初

富山縣觀光交通鳥瞰圖



大正・昭和の鳥瞰図総集
連載—第35回
吉田初三郎の世界



富山県

富山県観光交通鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

まず本図の、日本海側富山湾上空から俯瞰する大胆な構図は、初三郎爛熟期の作品である。富山平野を縦横に走行する各種の富山県内地方鉄道のネットワークはすばらしい。

順に左から黒部鉄道（大正十三年開業）、富山電鉄（昭和六年同）、富南鉄道（前身・富山軽便鉄道、大正三年同、昭和八年譲渡）、県営鉄道（昭和十二年開業）、富岩鉄道・越中鉄道（昭和七年同）、加越鉄道（前身・礪波鉄道、大正八年同）などが図示。

これらが、昭和十八年の戦時下、陸上交通事業調整法に基づき、富山電気鉄道を母体に県内全ての民営・公営鉄軌道が合併して「富山地方鉄道」が誕生（同年、富山外港として重要性が増している富岩線は国有化）し、今日に至るので、鉄道史は複雑である。

鉄道だけではなく細部を見ると、滑川・魚津沖のホタルイカや蟹気楼で名高い富山湾と背後の白雪の立山

藤本一美
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、
最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『富山県「富山県観光交通鳥瞰図」』

(昭和11(1936)年3月15日)
日満産業大博覧会協賛会 発行
京都市内の観光社出版部 印刷

※東京駅・大宮駅で発売中の
「とやま弁当駅弁」に本図複製品が添付。

富山を代表する観光地にアクセス 市内電車は最新鋭の路面電車が走行



富山地方鉄道株式会社

TOYAMA CHIHOU RAILROAD CO., LTD.

創業：昭和5(1930)年2月11日
本社：富山市桜町1丁目1番36号

富山地方の鉄道5社が合併して誕生した富山地方鉄道は、県内に100km以上もの鉄軌道網を展開する。鉄道線は、生活の足としてはもちろん、宇奈月温泉、黒部峡谷や立山黒部アルペンルートなどへの観光輸送でも活躍、「地鉄(ちてつ)」の愛称で親しまれている。

また軌道線、通称「市内電車」は、3系統7.6kmの路線を有する路面電車。平成21年には全長940mの富山都心線を開業して環状運転を復活させ、低床車両「セントラム」を導入、話題を呼んだ。さらに平成27年3月には、北陸新幹線の高架下にて電停を整備して新幹線と市内電車の乗り継ぎの利便性を高めるなど、「路面電車の走るまち・富山」の観光を牽引している。



なお、富山県内の鳥瞰図類については、平成二十四年、企画展『旅行時代の到来―パノラマ地図と近代大衆旅行』(滑川市立博物館主催)の開催予告を契機に、私が協力してまとめた「富山県の鳥瞰図一覽」(『山書月報』五八七号〈平成二十三年〉)と『北陸新幹線沿線パノラマ地図帖』能登印刷出版部(平成二十七年)を参照願えれば幸いである。

また、この埋立地は富山市で開催の日満産業大博覧会(昭和十一年四月十五日〜六月八日、約十九万人入場)会場地。それに合わせて初三郎に作画依頼しただけに、富山県と満州の結び付きをしっかりと表現。図隔右端には、東岩瀬・伏木港からの日本海航路を視覚的にアピールし、左端には北海道や樺太まで入れているのだが、なぜかいつもの富士山を欠くのは寂しい。

連峰に囲まれた沃野・複合扇状地の姿、黒部川の峡谷美、飛騨高地に発源する常願寺川・神通川・庄川の三大急流の姿も見事に表現している。旧神通川の廃川埋立地には、完成したばかりの富山県庁舎や完成間近の海電ビル(現・電気ビル)などを立体的に大きく描写。富山大空襲でも焼失を免れ、現在につながる近代建築物として誇っているほどだ。